

SYOHEI ニュース 令和5年8月号

『テス』のおもいで

衣川診療所医務技監 高橋久行

学生時代、夏休みになると普段読むことのできない古今の長編小説を読みたいという気持ちになりました。実際に読んだのは数えるほどでしたが、その中に『テス』がありました。そのおかし、『テス』が映画化され、話題になったことがありました。教養課程のころ、大学生協の入り口付近に『テス』のポスターが貼ってあり、特に映画好きとはいえない私でも魅かれるものがありました。実際にその映画を見たのはずっとあとでしたが、主演のN. キンスキー、なだらかな丘の続く風景、哀愁をおびたイギリス民謡風のメロディにすっかり魅了されました。特に古代遺跡ストーンヘンジでのラストシーンは、心に残る名場面です。



この『テス』がイギリスの文豪T.ハーディの代表作であることを知り、ぜひ原作を読みたいと思いました。岩波文庫でかなりのページ数でしたが、つまずきながらも、執念で読み通しました。小説の中で、テスは美しくもつつましい田舎の女性として描かれ、映画もほぼ原作どおりで、主演のN. キンスキーがみごとに演じきっています。けれども彼女がスラブ系ドイツ人であることがずっと気になっていて、原作を尊重するならば、テス役はイギリス人であるべきだったと思うこともあります。

昨年、思い立って『テス』を読み始め、一年がかりで、三回目の通読を終えました。若い時分との感受性の違いなのか、今回は新しい発見もなく、それほど感動しませんでした。そして改めて感じたのは、活字が小さ

いうえに、直訳的で古風な表現が多く、読みにくいということでした。これだけ有名な作品なのに、新訳がいっこうに出ないのが不思議です。自分が生きているあいだに、新訳で『テス』を読める日がくることを願っています。

大切な人へ 増沢塗

衣川増沢地区は、漆の産地として、また漆工芸の里として、藤原氏の時代の出处との一説があります。

この漆器は、主に
お膳、お椀などの食
器類で、この地方の
食の黄金文化を支
えています。



「古都の遊食」の大福



衣川古戸の産直施設「古都の遊食」のイチオシは、大福です。奥州市産のもち米を使用した素材にこだわって作った逸品。

保存料を使用していない「身体にやさしい」おやつです。もち米本来の味が味わえます。ずんだ・あずき・ごまと3種類の味を楽しむことができます。

大谷翔平選手の成績ボード (R4.8.28 現在)

打者 打率 305 本塁打 44 打点 92 盗塁 19
投手 勝利 10 敗戦 5 防御率 3.14 奪三振 167
(昨年8月末) 打者 打率 265 本塁打 28 打点 77 盗塁 11
投手 勝利 11 敗戦 8 防御率 2.67 奪三振 176

8/2: 7月の月間 MVP に2カ月連続で選ばれる。通算4回目は日本人最多

8/9: 1918年ペーブルース以来の MLB「2桁勝利 & 2桁本塁打」の偉業を2年連続で達成

8/23: 右肘靱帯損傷で投手の今季登板絶望。心配です。

『SYOHEI ニュース』は市医師養成事業関係者の情報紙です。
令和4年8月29日発行 奥州市医療局医師確保推進室
〒023-0053 奥州市水沢大手町3-1 TEL0197-25-3833
※ 奥州市医療局HPにバックナンバーを掲載しています。

衣の滝 菊の滝 奥州市衣川

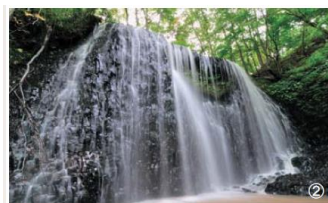
ぶらり奥州散歩道 VOL.44、VOL.50 から

衣の滝の名の由来をひも解くと、周辺の主峰で衣川随一の高さを誇る、高松能山の天女伝説につながっていきます。胆沢との境にある標高 927 ㍎のこの山は、嘉祥 3 年(850 年)、かの慈覚大師が大日如来像を安置したと伝えられ、その後の安倍氏・藤原氏時代は水上大明神として崇高された霊山です。この山に舞い降りて遊んでいた天女が、この滝で羽衣を洗っていたということから、衣の滝の名がついたようです。

衣の滝や衣川最古の集落と言われる旧増沢集落周辺には、このような伝説が数多く残っています。古くは仙北街道を軸とした秋田と岩手

を結ぶ交通の要衝

であった名残でしょうか。この地に伝わる言い伝えの真偽は皆さんの想像にお任せしますが、その昔この地を往来したであろう人々への思いをさせてみるのも良いのではないのでしょうか。『高さ・幅とも約 15.5 ㍎』滝を真近で眺めることのできる遊歩道も整備されており、これからの紅葉シーズンには気持のよい散策を楽しむことができそうです。



①さわやかな流れを見せる衣の滝。写真下方向に滝つぼが目を引く 2 番滝がある
②衣の滝奥にある巨大な主滝。見事な存在感に圧倒される
③増沢ダムからの分岐点に鎮座する案内石。衣の滝へはこの石を右方向へ



衣の滝

(衣川区増沢地内)

源義経が歌を残したとされる**菊の滝**は、国道 4 号線から県道 37 号に入って西へ約 17 ㍎ほど進んだ左側にあり、道路右側の大きな看板が目印となっています。地名から天田滝とも呼ばれる菊の滝は、西岸に菊の花が咲き乱れる風景の見事さから名付けられたそうです。上流部の浸食と下流部への土砂の堆積によって現在はあまり落差がありませんが、平泉全盛のころは、高さ 11 ㍎、幅 8 ㍎の見事な滝だったようです。滝に向かって左側の岸壁には、弘法大使(右)と不動明王(左)の磨涯仏があり、その記名から文久 3 年(1863 年)ごろの彫刻とされています。

衣川は平泉に接していることもあり、一首坂などのように歴史的逸話が残る地がたくさんありますが、菊の滝も例外ではありません。



① 4 月下旬には桜も満開になります
② 向かって左の岸壁に、2 体の磨涯仏
③ 馬頭観世音の石碑があるのが、馬産地の衣川らしい



菊の滝

(衣川区天田地内)



文治 4 年(1188 年)ごろに源義経と北の方が度々遊覧したと伝えられ、2 人の詠んだ歌が残されています。

『山川の浪の花ともみゆるかな 千々乱れて匂う白菊(判官)』

『しら浪の音にも聞きし菊川の菊は世に似ぬ色香なりけり(北の方)』

現在は春の桜と秋の紅葉が美しく、水音が訪れる人の心を癒してくれる菊の滝。咲き乱れる菊の群生や、壮大な水しぶきを見ることはできませんが、時の流れや人の儚さなど、歴史の妙味を感じさせてくれます。